

第13回 ミズノカップ 2014 秋季リトルリーグ野球宮城県大会

I 大会規則

1. 日本リトルリーグ野球協会公認競技規則並びに本大会規則による。

II 登録及び義務

1. 選手
 - 1) 人数 登録選手数は9名以上20名以内とする。
2. 監督及びコーチ
 - 1) 監督 1名
 - 2) コーチ 2名まで
 - 3) 監督、コーチは成人の者に限る。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニフォームの胸に明確にリーグ名の表示のある物に限る。
なお、白色のアンダーシャツは認めない。
2. 監督及びコーチは、上着は襟付きの白、ズボンは白又はグレーで統一したものを着用する。
3. 監督及びコーチの帽子は、選手と同じ物又は白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット(耳カバー付)、プロテクター(ロングタイプ)、マスク、スロートガード(のどあて)及びカップを着用する。
2. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持込を禁止する。
3. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。なお、投手は投球時は使用できない。
4. サングラスの使用は、選手のプレーに必要なときは認める。また、監督、コーチの使用は禁止するが、大会本部が許可した場合はこの限りではない。
5. ヘルメットのアゴひもを着用すること。
6. グラブのひもが必要以上に長い物は認めない。
7. 出場選手は安全確保の為、胸部保護パッドを着用すること。
8. バットは非木製でBPF1.15の表示のあるもののみ使用。

V 試合の準備

1. ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定とする。
3. シートノックは後攻より5分間とするが、都合により短縮及びカットする場合もある。
4. 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 本大会はトーナメント方式とする。1時間30分制もしくは6回までとし、同点の場合は抽選とする。
準決勝・決勝戦は**2時間**とする。延長戦は9回までとし、9回で決着がつかない場合はタイブレーク制を適用。(2時間以内)
2. 全試合、点差によるコールドゲームを適用し、4回以降7点差とする。(準決勝・決勝戦も含む)
3. ベースコーチに指導者(監督・コーチ)を1人認める。
 - 1) 一塁・三塁どちらのコーチャーボックスでも良い。
 - 2) 同一イニング中はコーチャーボックスの移動はできない。
 - 3) 同一イニング中はコーチャーボックス内の指導者の変更は認めない。
 - 4) 指導者がコーチャーボックスに入らなくても良い。なお、イニングの途中の出入りは認めない。
 - 5) 任務
 - * 打者及び走者への指示に限る。
 - * コーチャーボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムに数える。
 - 6) ペナルティー
 - * 選手に対し、威圧的な言動があった場合、1回目は警告する。
 - * 2回目は監督の退場となる。
4. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることは出来ない。
5. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督及びコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。
但し、守備側の指示より長い時間は認めない。
6. 監督及びコーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このとき捕手及び内野手が集合しても良い。監督・コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
7. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。但し、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めないことがある。
8. 投手のウォームアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
9. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。同様の行為を再度審判員がみつけた時は、当該リーグの監督を退場させる。
10. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
11. ベースコーチなどが、打者走者(走者)の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールする行為を禁止する。
12. 臨時代走
 - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。

- 3) 頭部に投球及び送球を受けたときは必ず臨時代走を出すこと。
13. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトとなる。
但し、帰塁時のヘッドスライディングは認める。
14. ボークが発生したときは走者を進塁させず、ボールをカウントする。
15. 一試合に起用する投手の数は制限しない。
16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は、選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督、コーチ、選手の退場

次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。

1. 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し、暴力及び暴言があった場合、監督及び当該者を退場させる。
2. 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

VIII スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に返球する。
6. 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

IX 補 則

1. ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りとする。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からハーフスイングのリクエストを受け付ける。
3. 全野手がファウルラインを超えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、この野手がボールデッド地域に倒れこんだ場合はボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れこまなかった場合はボールインプレーとなる。
5. 打者アウトルール改正
 - 1) 第3ストライクを正規に捕球した場合。
 - 2) 無死または一死で一塁に走者がいるときに第3ストライクが宣告された場合。
 - 3) 不正バットによる反則行為。
6. ネクストバッターサークルは作らない。次打者はベンチの出入口付近に待機する。
7. 監督、コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
8. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしない。(コーチャーボックスのタッチ禁止)
9. 選手はユニフォームをきちんと着用すること。

X 特 記 事 項

1. 「全員出場の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。
2. 「投手の規則」
 - 1) 降板した投手は、投手には戻れない。
 - 2) **投球制限をする。1日の投球数は、小学校6年生は85球・小学校5年生以下は75球とする。**
投手が1試合に21球以上投球した場合は次の試合には投球できない。(休息試合を設ける)
ただし、20球以内の投球数であれば、上記投球数を限度に当日の第2試合に登板できる。
 - 3) **試合で41球以上の投球を行なった投手は、その日は捕手を務めてはならない。**
 - 4) **試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。**
3. ベンチ入り後は一切ベンチの外に出られない。やむを得ない場合は**審判員**の許可を得て出ることとする。
許可無くベンチを出た場合は、その時点でベンチに入れない。(指導部・選手)
4. 「球場内の練習・応援注意事項」
 - 1) 試合前の練習はフリーバッティング、トスバッティング、ノック等、バットにボールを当てる行為を禁止する。
(外野・敷地内全て。選手のケガ防止。アップの場所である。)
ただし、素振り・キャッチボール等の使用できます。
 - 2) バグネット裏・ベンチ裏・外野での撮影・応援・スコア記入は全て禁止。(カメラのみの設置含む。)
所定の場所での活動をお願いします。